

【テーマを設定する】

★1歳児

園独自の取り組みとしてはちゃめちゃあそび(五感を使って様々な感触遊び等を夢中になって遊びこむ活動)を年間計画として実施している中で、より様々な素材に触れることで子どもたちの五感を育んでいくことができると感じるとともに、様々なものに触れることで「○○みたい」と感じたことを見立てる姿が見られたため、より想像力を育んでいくことができると感じている。

特に1歳児は指先の感覚が豊かになってくる年齢でもあるため、その時期に様々な素材に触れる経験を通して子どもたちの感性を育んでいくことができると感じ、テーマを設定する。

【活動スケジュール】

◆1歳児◆

4月 おはながみにふれてあそぼう

8月 泡ってどんな感触？

6月 土・泥ってどんな感触？

氷ってどんな感触？

7月 寒天ってどんな感触？

11月 紙粘土ってどんな感触？

活動①おはながみにふれて遊ぼう ～1歳児～

●問いを考える

・ふんわりとしたお花紙や紙テープに触れたとき、子どもたちはどのような感触の違いや心地よさに気づき、自分なりの遊びへと発展させていくのだろうか、素材に触れる中でどのような発想や表現がうまれるのだろうかという問いをもとに活動をする。

●環境をデザインする

- ・広い部屋
- ・色とりどりのお花紙
- ・紙テープ
- ・マスキングテープ



●探究活動を実践する

- ・保育室全体にお花紙や紙テープを広げ、子どもたちが自由に触れたり、握ったりちぎったり、舞わせたりできる環境を整えた。
- ・子どもたちは「ふわふわしてる」「やわらかい」「いっぱいとんだ」など、素材の感触や動きに気づきながら遊びを始めた。
- ・お花紙をカップに入れてジュースに見立てたり、紙テープを組み合わせて秘密基地を作ったりと、素材の特徴を活かしながら友達とイメージを共有し、遊びを広げていく姿が見られた。

●振り返りを踏まえた気づき

- ・子どもたちは素材に直接触れることで柔らかさや軽さ、手触りなど様々な感触を全身で感じ取り、それぞれの感じたことを言葉や遊びで表現していた。
- ・同じ素材でも使い方によってさまざまなものに見立てることができることに気づき、友達の真似をしたりしながら遊びが広がっていった。
- ・素材に十分触れられる環境を整えることで、感触を楽しむだけでなく、想像力や表現力、協同性の育ちにもつながっていくことを改めて感じた。



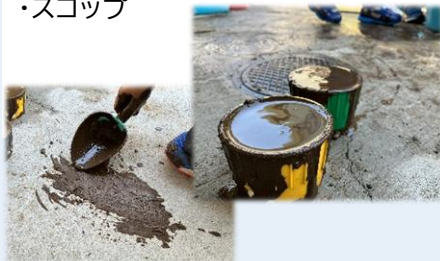
活動②土・どろってどんな感触 ～1歳児～

●問いを考える

・普段砂場の砂には親しんでいる子どもたちが、土や泥、水が混ざり合った素材に触れたとき、どのような感触の違いに気づき、どのような反応や遊びへとつなげていくのだろうか？また、初めての感触に触れる中で、どのような表情や言葉、友達との関わりが見られるのだろうかという問いをもとに活動をする。

●環境をデザインする

- ・タライ
- ・砂
- ・荒木田の土
- ・水
- ・汚れても良い服
- ・スコップ



●探究活動を実践する

・たらいを用意し、水と土を混ぜて泥遊びや普段からなじみのある砂を入れた砂遊びができる環境を整えた。
 ・子どもたちは、はじめは泥をじっと見つめたり、指先でそっと触れたりしながら様子をうかがう姿が見られた。
 ・泥に慣れてくると、手のひらで握ったり、指でつまんだりしながら「冷たい」「ぺたぺた」「どろどろ」など、感じたことを表情や言葉で表現していた。
 ・感触が苦手な子はスコップで泥を持ち上げたり、コップやお皿にうつしたりしながら、泥の固さや感触の変化、砂との感触の違いに気づき、友達の遊ぶ様子を見ながら一緒に真似をしたり、笑いあったりしながら遊びを広げていく姿が見られた。

●振り返りを踏まえた気づき

・子どもたちは、土や泥に直接触れることで、冷たさや柔らかさ、ぬるっとした感触など、砂とは異なる素材の特徴を全身で感じ取っていた。
 ・初めは慎重だった子も、友達や保育者の姿に安心感を持ち、少しずつ自分から触れたり試したりする姿へと変化していった。
 ・水の量によって泥の状態が変わることも遊びの中で何となく感じ、水を入れてとろとろになる感触が楽しく、何度も何度も繰り返し水を入れる姿があり、興味関心が深まることで子どもたちの遊びこむ姿に繋がっていくことを改めて実感した。
 ・身近な自然素材に十分触れられる環境を整えることで、感覚の育ちだけでなく、好奇心や挑戦する気持ち、友達との関わりへの広がりにも繋がることを感じた。



活動③寒天ってどんな感触 ～1歳児～

●問いを考える

・冷たくやわらかい寒天に触れたとき、子どもたちはどのような感触の違いに気づき、どのような方法で確かめようとするのだろうか？繰り返し触れる中でどのような興味や発見が生まれるのだろうかという問いをもとに活動をする。

●環境をデザインする

- ・机
- ・椅子
- ・色を付けた寒天
- ・透明カップ



●探究活動を実践する

・色を付けた寒天を子どもたちの前に用意し、自由に触れられる環境を整えた。
 ・初めは不思議そうにみつめ、指先でそっとつついたり、手のひらで触れたりしながら感触を楽しむ姿が見られた。
 ・慣れてくると、握りしめたり、つまんだり、両手を合わせて混ぜ合わせたりしながら、冷たさやぷるぷるした感触、形が変わる面白さを繰り返し楽しんでいた。
 ・色の違う寒天を見比べたり、混ぜたりしながら、細かくなった寒天に光が入って光る様子を「キラキラ」など視覚的な変化にも興味を示し、自分なりの方法で素材との関わりを深めていった。

●振り返りを踏まえた気づき

・子どもたちは寒天に実際に触れることで「冷たい」「やわらかい」「ぷるぷるする」といった素材の特徴を、指先や手のひら全体を使って感じとっていた。
 ・感触遊びが苦手だった子も、きれいな色という素材の中で触れてみようとする姿が見られたため、視覚的な印象も子どもたちの興味に影響があることを改めて感じた。
 ・五感を使って素材を十分に感じられる環境が、好奇心や探究心を惹きだし、自ら試したり発見したりする姿に繋がることを実感した。



活動④泡ってどんな感触 ～1歳児～

●問いを考える

・ふわふわした泡に触れたとき、子どもたちはどのような感触や形の変化に気づき、自分なりに確かめたり遊びへと発展させたりしていくのだろうか？泡という変化しやすい素材とのかかわりの中で、どのような発想や表現が生まれるのだろうかという問いをもとに活動をする。

●環境をデザインする

- ・たらい
- ・石鹸
- ・泡立てネット
- ・スコップ
- ・カップ



●探究活動を実践する

・たらいにたっぷりの泡を用意し、子どもたちが自由に手や指で触れられる環境を整えた。
 ・子どもたちは、指先でそっと触れて感触を楽しんだり、両手ですくったり、手を洗うように両手をこすり合わせたりしながら、ふわふわしたやわらかさや軽さを楽しんでいた。
 ・泡を集めて容器に入れ、「ジュース」「アイスクリーム」などに見立てたり、手や腕につけて「クリーム」と友達や保育者とのやりとりを楽しんだりする姿が見られた。
 ・触れることで泡が消えたり形が変わったりする様子にも気づき、繰り返し触れながら変化を確かめていた。

●振り返りを踏まえた気づき

・普段の手洗いに泡の石鹸を使用していることもあり、泡に対しては抵抗は少なく、すぐに泡に触れて遊び始める姿があり、普段から知っているものや感触という環境も探究を深めるにあたって乳児期には大切な環境構成であることを感じた。
 ・子どもたちは泡に触れることで、「ふわふわ」「やわらかい」「なくなっちゃった」といった、泡ならではの特徴を、手や指先を使って感じていた。
 ・触れるたびに形が変わったり消えたりする様子に興味をもち、何度も試しながら素材の変化を楽しむ姿が見られた。
 ・泡を食べ物や身近なものに見立てることで、感触を味わうだけでなく、想像力や表現力、友達とのやりとりへと遊びが広がっていった。
 ・変化のある素材に十分に触れられる環境が、子どもたちの好奇心や探究心をより深めることに繋がると感じた。

活動⑤氷ってどんな感触 ～1歳児～

●問いを考える

・冷たく硬い氷に触れたとき、子どもたちはどのような感触の特徴に気づくのだろうか、触れ続けることで泡とは違う形の変化や溶けてなくなる様子にどのような興味や発見がうまれるのだろうかという問いをもとに活動する。

●環境をデザインする

- ・たらい
- ・氷遊び専用の冷凍庫
- ・製氷ケース
- ・色水(食紅)
- ・アイスの棒



●探究活動を実践する

・色を付けた氷を用意し、子どもたちが自由に触れたり手に取ったりできる環境を整えた。
 ・指先で触れて冷たさを確かめたり、手のひらで握ってみたりしながら、氷の硬さやつるつるとした感触を楽しんでいた。
 ・氷を愛すキャンディのように棒を付けたことで、棒を持ち筆やクレヨンのように氷絵の具遊びを楽しむ姿も見られた。
 ・色の違う氷が解けて色が混ざり合ったりすることに気づき保育者に伝える姿も見られた。
 ・握り続けると少しずつ小さくなったり、水へと変化していく様子に気づき、不思議そうに見つめたり、繰り返し触れて確かめたりする姿が見られた。

●振り返りを踏まえた気づき

・子どもたちは氷に直接触れることで、「冷たい」「かたい」「つるつるする」といった素材の特徴を、手や指先を使って感じていた。
 ・転がす、水になった氷に触れるなどといった繰り返しの関わりのなかで、氷が溶けて形や状態が変化することにも気づき、興味をもって繰り返し試してみる姿が見られた。
 ・実際に触れて変化を体験できる素材は、感触を楽しむだけでなく「なんで水になるの？」という不思議さや発見につながり、子どもたちの好奇心や探究心を育むことに繋がると感じた。



活動⑥ 紙粘土ってどんな感触 ～1歳児～

●問いを考える

・普段親しんでいる油粘土とは異なる紙粘土に触れたとき、子どもたちはどのような感触の違いに気づくのだろう、握る・ちぎる・伸ばすなど繰り返し関わる中で、どのような発見や遊びの広がりが生まれるだろうという問いをもとに活動をする。

●環境をデザインする

- ・机
- ・椅子
- ・制作シート
- ・粘土板
- ・紙粘土



●探究活動を実践する

・子どもたちが普段使っている油粘土とは別に紙粘土を用意し、自由に触れられる環境を整えた。
・紙粘土の柔らかさを感じ、「ふわふわ」「きもちいいね」などと、手のひらで押したり、指先でつついたりしながら、感触を楽しむ姿が見られた。
・両手で握ったり、ちぎったり、伸ばしたり、指で穴をあけてみるなど一人一人がそれぞれの方法で繰り返し素材に関わっていた。
・次第にそれぞれがイメージしたものに見立てて「ケーキ」「はーと」などと保育者に伝える姿があった。
・油粘土とは異なるふんわりとした軽さや、ちぎりやすさ、形の変わりやすさを感じながら、じっくりと素材とのかかわりを楽しむ姿があった。

●振り返りを踏まえた気づき

・子どもたちは紙粘土に触れることで、普段使っている油粘土との違いに、手や指先を通して気づいている様子が見られた。
・握ったときのやわらかさや軽さ、簡単にちぎれる感触、形が変わる面白さを感じながら、繰り返し触れて確かめる姿が見られた。
・1歳児にとって、新しい素材に出会い、自分の手で確かめながら関わる経験は、五感を豊かに育むだけでなく、「やってみたい」「もう一度触ってみたい」という主体的な興味や探究心に繋がっていることを感じた。
・普段親しんでいる素材との違いに触れることで、素材ごとの特徴を自然に感じ取る姿にも成長が見られた。

